

頂 戦

八幡平の頂に、 自分の限界に、挑む。

八幡平の雄大な景色の中を自転車で駆け上がるロードレース大会「八幡平ヒルクライム2019」(実行委員会主催)は8月25日、八幡平アスピーテラインで開かれました。初めて開かれた昨年に引き続き、2回目の開催。昨年より約100人増え、県内外から302人が出場しました。昨年からコースに変更はなく、ピタターセンター前から山頂パークキング手前路側帯までの約19kmのメインと御在所パークキングまでの約8kmのショートコースが設けられ、経験者のエキスパート、一般女子、小学5年生から中学生までのジュニア男女(ショートとメイン)、初心者のビギナー男女(ショート)、年齢別の一般男子の計12クラスで競いました。競技開始時の午前7時半、スタート地点の天候は曇り。参加者は、力強くペダルを踏み込み、急坂を駆け上がりました。山頂ゴール付近はガスに覆われ、体温を奪われるほ

どの寒さでしたが、残った力を振り絞り、懸命にゴールを目指しました。参加者の中で最も遠くから参加した鹿児島県霧島市の神園和幸さん(76)は「冷涼な気温でしたが、自然を楽しみながら完走できました。山登りが好きで何度も岩手に来ていますが、今回は八幡平ヒルクライムに初挑戦し、達成感を味わえました」と顔をほころばせました。同実行委員会の伊藤敬事務局長は「今回は約100人も参加者が増えました。選手に認知されていけば、もっと大きな大会になるのではないかと可能性を感じています。八幡平という観光資源への新しい利用のアプローチとして、自転車が注目されていけば、おもしろいと思っています」と構想を描きました。競技終了後には、さくら公園で表彰式と抽選会が開かれ、最後まで盛り上がりを見せ、幕を閉じました。



上/緊張の面持ちでスタートを待つ一般男子B 下左/ゴール直前、ガスの中から現れたエキスパートクラス上位3選手 下右/ラストスパートを決め、優勝を勝ち取った山口選手



山口 裕之さん(43)
=青森県=

初参加で、エキスパートクラスで優勝できて、とてもうれしいです。万全の状態で大いに臨むことができました。

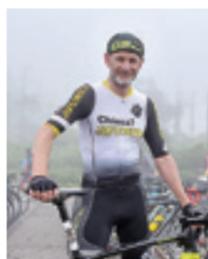
序盤は勾配がきつく、終盤は平らですが、風が強くて厳しかったです。けん制し合いながら、駆け引きを楽しむことができました。



本間 仁さん(39)
=盛岡市=

エキスパートクラスに出場。最後に振り切られてしまい、2位でした。

昨年に引き続き参加しました。参加者が昨年よりも増えたせいか、力の合う人たちと最後まで競り合う展開でした。負けてしまいましたが、誰が勝つか分からない楽しいレースでした。



James Hobbsさん(50)
=盛岡市=

練習で八幡平市によく来ます。アスピーテラインの他にも、樹海ラインや岩手山パノラマラインなど、車も少なく、道路状態の良いコースがあります。

景色もいいので、外国の人に長期滞在してもらい、自転車で楽しんでもらえたらいいなと思っています。



竹内 雅廣さん(65)
=青森県=

初参加です。年に4回程度、岩木山や鳥海山などの東北で開かれるヒルクライム大会に出場しています。

30年ぐらい自転車競技をしています。自分の限界に挑戦するヒルクライムは、とてもきついですが、ゴール後の達成感は格別で、楽しいスポーツです。



畑中 律輝さん(16)
=滝沢市=

男子Aクラス2位でした。昨年の同クラス5位の成績を上回ることができましたが、1位になれなかったので、とても悔しいです。

盛岡農業高自転車競技部に所属しています。県高校新人戦で優勝し、インターハイ、選抜大会と全国大会出場目指してがんばりたいです。

【大会記録】 優勝者のみ掲載、敬称略 ※(S)はショートコース

クラス	氏名	住所	記録
エキスパート	山口 裕之	青森県	0:57:00
男子A(中学卒業~29歳)	小村 知之	青森県	0:56:45
男子B(30歳~39歳)	北浦 暁	宮城県	0:56:14
男子C(40歳~49歳)	太田 裕成	青森県	0:59:05
男子D(50歳~59歳)	林崎 伸師	北上市	0:58:59
男子E(60歳以上)	高橋 順一	宮城県	1:04:59
一般女子	工藤 めぐみ	青森県	1:13:56
ジュニア男子	田山 遥貴	宮城県	1:09:14
ジュニア男子(S)	上村 悠瑳	宮城県	0:36:08
ジュニア女子(S)	山下 愛望	九戸村	0:45:00
ビギナー男子(S)	佐々木 敬太	山形県	0:30:32
ビギナー女子(S)	田村 由紀代	盛岡市	0:46:21



Photos